

会 議 概 要

第 1 回 【山滝校区】学校適正化に向けた校区懇談会

《開催日》令和4年6月29日（水曜日）

《時 間》19：30～21：00

《場 所》内畑町会館

《参加者》地域参加者：11名 教育委員会事務局：5名

<議題等>

- 1 開会
- 2 事務局挨拶
- 3 懇談会参加者・事務局の紹介
- 4 議題
 - (1) 事務局からの説明事項について
 - (2) 意見交換

| | |
|-----|--|
| 事務局 | (別添資料に沿って内容を説明) |
| 参加者 | (仮称)山滝小中一貫校は、認定こども園を含めた施設一体型小中一貫校としての整備を考えているということでしょうか。 |
| 事務局 | 現実実施計画(案)では、そのような整備内容をお示ししている。 |
| 参加者 | 山直南校区では岸の丘町の開発によって子どもの数が増えてきている状況だと把握している。現状では山直南校区での実施計画(案)に係る話し合いは難しいということか。 |
| 事務局 | これまで、山直南校区の各町会長と懇談会設置に向けた話し合いを行ってきたが、合意には至らなかった。 教育委員会としては、岸の丘町の開発によって一時的に児童数の増加が見込めるものの、その後は再び減少に転じると予測している。適正化の取組については、地域や保護者の皆様との協議を重ね、一定の合意に至ってから開校までに5年程度の期間が必要となるため、現段階から取組を始めなければならないものと考えている。 |

| | |
|-----|--|
| 参加者 | 児童数の減少を踏まえると、できれば小中一貫校の設置に向けて話を進めてほしい。例えば、山滝校区と、東葛城校区の一部（神於町、上白原町）だけで先行して再編するというのはどうか。 |
| 事務局 | 東葛城校区内の児童数減少を踏まえると、仮に山滝校区と先行して再編を行ったとしても、学校規模が小さいままになるという課題がある。 |
| 参加者 | 山直南校区との話し合いが進まない場合、再編自体もこのまま進められないということなのか。その場合、山滝校区懇談会としても目標を定められないことになる。 |
| 参加者 | 山直南小学校は閉校にならないということなのか。 |
| 事務局 | 将来の教育環境を考える上では、実施計画（案）についての協議を行いたいと考えているが、山直南校区での懇談会を設置できない中、強引に再編を行うこともできない。 |
| 参加者 | 山直南校区内の町会では「教育委員会の案は保留とする回答を得た」といった内容のチラシが配布されているが。 |
| 事務局 | 教育委員会としては、いつでも協議をさせていただく姿勢であり、その旨は山直南校区との事前協議の場でお伝えしている。 |
| 参加者 | 山直南小学校の存続が決定したということではないのか。 |
| 事務局 | 協議ができない状態であるため、現状としては取組を留保せざるを得ないという状況である。 |
| 参加者 | 山直南校区内で住民アンケートといったものは取られたのだろうか。 |
| 事務局 | 稲葉町、山直中町からは反対署名の提出があった。包近町からは、町内で実施したアンケート調査結果の提出があった。 |
| 参加者 | 現在、小学校に子どもを通わせている保護者の意見はどうか。現役の保護者からすれば、地域に学校を残すといった観点よりも、施設等の教育環境を重視する観点の方が強いのではないかと思う。より良い教育環境を求 |

| | |
|-----|--|
| | <p>めて大阪市内の私立小学校へ入学させる保護者も多いと聞く。公立でも優れた教育環境を整備できれば、保護者も喜ぶと思う。そのあたりの調査を深めて、説得についても考えてもらわなければいけないのでは。</p> |
| 事務局 | <p>校区内でも様々なご意見があると思う。本来は、校区懇談会を設置し、その中で議論を重ねながら進めていきたいという考えである。</p> |
| 参加者 | <p>東葛城校区や山直南校区では、現在は中学校進学時に子どもたちが分かれてしまうが、小中一貫校になれば小学校から分かれずに中学校に進学できるようになる。取組を押し進めて欲しい。</p> |
| 参加者 | <p>山滝校区の将来推計について資料に記載されているが、10年以上先についてはどのように推計したものなのか。</p> |
| 事務局 | <p>本市の企画課が住民基本台帳を基に作成したものを抜粋し、掲載しているものだが、昭和59年から現在までの異動平均値を算出し、それが将来も続くと仮定した上で推計したもの。</p> |
| 参加者 | <p>5、6年後であれば、今の乳幼児の数からある程度推測できると思うが、この表を見るとそれ以降で極端に減少する推計値となっているので、恐ろしいといえば恐ろしい。</p> |
| 参加者 | <p>最近、山滝校区内で生まれる子どもの数が非常に少ない。一方、岸の丘町の開発による影響から、山直南校区では増えてきている。浜手の校区も含め、市全体として減少傾向にあると把握しているが、危機感はある。</p> |
| 参加者 | <p>仮に山滝中学校地で小中一貫校を設置する場合、現在の校舎は全面建替えになるのか。</p> |
| 事務局 | <p>校舎の建替えは必要になると考えているが、全面建替えをするか否かについて、現状では未定である。資料に記載している図面は、あくまでも一例である。</p> |
| 参加者 | <p>小中一貫校になれば、現在の施設よりは充実したものになるということでしょうか。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 文部科学省からは、「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」という手引きが示されており、それらの内容も踏まえ、充実した施設整備を行いたいと考えている。 |
| 参加者 | 運動場の大きさがどうか。 |
| 事務局 | 山滝中学校の敷地が狭いのではないかと、いったご指摘は説明会等でもいただいてきたところ。限られた敷地ではあるが、老朽化の課題を抱える山滝プールの敷地活用や、校舎の整備内容にもよるが、先進事例でみられる、屋上を活用したプレイコートの整備など、様々な方策が考えられる。 |
| 参加者 | 体育館について、小学生用と中学生用をそれぞれ設けるということは可能か。 |
| 事務局 | 小・中学生用に2つの体育館を設置することは、敷地の状況を踏まえると困難だと考えている。 一方、小・中学生間ではバスケットゴールの高さや、コート大きさが異なるため、工夫は必要だと考えている。 |
| 参加者 | 高層化や、敷地拡大も考えられるのでは。 |
| 参加者 | 北摂地域では小中一貫校が増えていると聞く。豊中市でも、人口減少地域で小中一貫校を設置するということを聞いている。岸和田市でももっと早いうちから取り組んでおくべきだったのでは。 |
| 参加者 | 小・中学生で授業時間が異なることなど、小中一貫校の課題もあると思う。そこに認定こども園も併設するとなれば心配な面もある。 |
| 参加者 | 包近町や山直中町は、祭礼では山直北校区とつながりがあるが、反対意見が多いのだろうか。 |
| 事務局 | 様々な意見はあるだろうが、これまでの市民説明会等では、再編についての反対意見をお受けしてきたところ。 |
| 参加者 | 以前は山直校区の方で、山滝中学校に通いたいということで引っ越してきた方がいた。学校に行きにくい子どもが山滝中学校に転入してきたこと |

| | |
|-----|---|
| | もあったように思う。 |
| 事務局 | 教育的配慮が必要な子どもについては、通学する学校が変わるケースもある。 |
| 参加者 | 「田舎の良さ」に魅力を感じる方もいると思う。 |
| 事務局 | 現実実施計画（案）でお示ししているように、特認校となれば、校区外からの通学も可能となる。 （仮称）山滝小中一貫校では、自然豊かな環境という特色を活かすことができるのではないかと考えている。 |
| 参加者 | 特認校は市内でいくつ、といった決まりはあるのか。 |
| 事務局 | 現実実施計画（案）では、（仮称）葛城小中一貫校を含めて2校の特認校を設置することを検討している。 |
| 参加者 | 現在は東葛城小学校が特認校に指定されているが、例えば現段階から山滝中学校を特認校にすることも可能なのか。特認校の条件があるのか。 |
| 事務局 | 特認校制度は、あくまでも「学校選択制」の一種である。よって、何か法的に条件が規定されているものではない。 東葛城小学校は「小規模」という特認制度として定員を設けており、この形態が全国的な事例でも多くみられる。 |
| 参加者 | 東葛城小学校では、地域の方々が色々と考えた結果、小規模特認校としてスタートしたということだと思う。 |
| 事務局 | 現在東葛城小学校の全校児童は74名（R4.5.1時点）だが、そのうち28名が特認校制度を利用し、校区外から通学している。校区外からの通学に際しては、保護者の責任において送迎されている。 |
| 参加者 | 校区外から児童を迎え入れるという点について、東葛城校区内でも話し合いを行いながら検討を進めてきたようだが、複式学級の発生が見えていたことがやはり大きかったようだ。 |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>当時は複式学級の発生が本当に目前に迫る状況であり、翌年からは実際に配置される教員の数が足りなくなる見込みであった。</p> |
| 参加者 | <p>このままだと山滝小学校でも複式学級が見込まれるということなので、何とか取組を前に進めて欲しい。</p> |
| 参加者 | <p>若い子育て世代の方が少しでも増えてくれれば影響は大きいと思う。そのためには、子育て世代にとって住みよいまちづくりを進めていくことが大切。町会でもできることを頑張ってもらいたいと思う。</p> |
| 事務局 | <p>令和9年度には複式学級の発生が具体的に見えているため、子どもたちの教育環境のことを考えると、何とか取組を進めていきたいと考えている。</p> |
| 参加者 | <p>本当は我々も色々な意見を挙げていければと思うが、山直南校区の状況を踏まえると悩ましい。</p> |
| 事務局 | <p>現実実施計画（案）でお示ししているように、山滝小学校を閉校とし、山滝中学校地で小中一貫校を設置することに対する、皆さんのお考えはどうか。</p> |
| 参加者 | <p>小学校は地域により密着した存在であり、コミュニティ拠点や避難所としての機能もある。小中学校を残していきたい想いもあるが、以前教育長から、市にお金がないといったことも聞いた。</p> |
| 事務局 | <p>市の財政状況について話をしたこともあるが、今回の学校再編の取組は、子どもたちにとってのより良い教育環境の整備と学校教育の充実を最優先にした取組であり、教育長も当初から一貫して、その説明を行ってきた。</p> |
| 参加者 | <p>一定の集団規模が大切だということや、切磋琢磨が必要ということと言われるが、小規模校には良さがある。課題もあるが、小規模な学校でも存続してほしいと考えている。一方で児童数の減少が深刻な状況ということもわかる。</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>学校全体の人数が非常に少ない中では、集団活動の制限や人間関係の固定化など、教育上の観点での課題が多い。教育委員会としては、そうした課題の解決を図っていきたいと考えている。</p> |
| 参加者 | <p>小規模校には小規模なりの良さがあるというのは同感。審議会（岸和田市立小中学校等規模及び配置適正化審議会）会長を務めた大学教授も「小規模校には良いところがある」と話していた。</p> |
| 事務局 | <p>教育委員会としても、小規模校の良さは認識している。一方、課題も多くあると捉えている。</p> <p>例えば、配置できる教員の数は学級数に応じて定められており、各学年単学級の中学校では、教科ごとの教員配置が困難。その場合、1人の教員が2つの教科を教えることになるが、生徒にとっては専門性の高い授業を受けられないといった影響が生じる。</p> <p>また、現在社会問題となっている教員不足も相まって、怪我や病気、産休や育休で教員が欠けた場合のカバーが困難であり、子どもたちの学習を保障する上での大きな課題となっている。</p> |
| 参加者 | <p>認定こども園も含めた施設一体型小中一貫校を設置する際は、国からの補助金を受けられるのか。</p> |
| 事務局 | <p>校舎整備に際して国庫補助を受けられる。また、起債に係る交付税措置等もある。</p> |
| 参加者 | <p>モデル校となるような学校施設の整備を期待する。</p> |
| 事務局 | <p>山滝中学校地に小中一貫校を設置するという大きな方向性に対し、概ねご理解いただけるか。</p> |
| 参加者 | <p>個々で考え方に差はあると思うが、児童数推計等を踏まえると、将来的にはそのようになるのではないかと考えている。</p> |
| 参加者 | <p>時代の流れでそのようになっていくものと捉えている。大阪市内でも小中一貫校が増えてきているが、このような懇談の場を設けて取り組んできたのだろうか。</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | 自治体や地域によって事情が異なると思われるが、先進事例の多くは、地域や保護者の皆様との協議を重ねながら取組を進めてこられたものと把握している。山直南校区でも同様に、懇談会での協議を重ねていきたいと考えていたが、現状は先ほど説明したとおりである。 |
| 参加者 | 岸の丘町で現に子どもの数が増えている中、この案を受け入れがたいという感情はわかる。行政が先行して取組を進めていくことも難しいだろう。 |
| 事務局 | 賛否様々なご意見がある中、それぞれの地域と十分な協議を行うことなく進められる取組だとは考えていない。 |
| 参加者 | いくつかの校区では既に懇談会を開催したとのことだが、例えば修斉校区ではどのような感触だったか。 |
| 事務局 | 通学環境に関するご意見や、小学生と中学生が同じ施設で学ぶことへの心配ごと等をお伺いした。 |
| 参加者 | 山直北・城東校区はどうか。大規模校になるのではないかと思うが。 |
| 事務局 | 先日第1回の懇談会を開催し、児童数についてのご意見も伺ったところ。今後も協議を重ねながら情勢を見極めていきたい。 |
| 参加者 | 「今のままでいい」という考えの方も多いとは思いますが、将来的なことを考えると、「あのとき取り組んでおけば」ということも考えられる。 |
| 参加者 | 現役の保護者世代の声が大切だと思う。各町の子ども会の意見等も吸い上げられれば望ましい。 |
| 事務局 | 本日は、校区の現状を皆様にご報告させていただくということも目的であった。今回のご意見も踏まえながら、次回の開催につなげていきたい。なお、本日はお時間も限られていたので、別途ご意見・ご質問用紙を配布させていただく。 |
| | 以上 |